

山の日情報

(第 11 号)

平成28年11月 1日

秋 田 県 生 活 環 境 部
自 然 保 護 課

【活動記録】

10月3日から1泊2日の行程で八瀬森避難小屋に行ってきました。

目的は、7月にボランティアの高校山岳部及び社会人山岳会に荷揚げしてもらったペンキ等を活用して、当該避難小屋の防腐塗装を行うためです。せっかくのボランティアを無駄にはしたくない、また、塗装作業を完了させることが事務局(県自然保護課)の当然の務めであると考えていました。

しかし、6時間かけて八瀬森避難小屋まで歩いたのにもかかわらず、またもや無情の雨でペンキ塗りをすることはできませんでした。

苦労をしたボランティアの皆さんに、塗装を完了したと報告がしたかったのですが、大変に悔やまれます。

なお、7月には新緑とニッコウキスゲの群落があった湿原は草紅葉に変わっていて、四季の変化と時の流れを実感しました。



(小屋前に置いたペンキ等)



(7月18日の新緑)



(10月4日の草紅葉)

以上が残念な報告ですが、良い報告もあります。

それは、ヤブ化していた関東森分岐から大白森山荘までの縦走路を数年ぶりに刈り払いしました！刈払作業については、八幡平を美しくする会南八幡平支部に実施してもらいましたが、全区間を行うのに約6人掛かりで9日間を要しました。

この重労働を引き受けてくれた同会には感謝をするとともに、秋田県としても登山道等を適切に維持管理していかなければならない、また、当該縦走路を十和田八幡平国立公園を代表する‘八幡平秋田駒ヶ岳縦走路’として整備をしていきたいと改めて考えさせられました。

右の写真は、広大な絶景が続く縦走路です。

刈り払い前は背丈以上ある笹のヤブこぎを強いられましたが、元々は展望抜群であり、秋田駒ヶ岳周辺とは打って変わって、静かな縦走を楽しむことができます。

この八瀬森避難小屋へ続く‘八幡平秋田駒ヶ岳縦走路’を再び歩き、必ずや塗装作業の完了について報告をしたいと思っています。



(事務局からのお知らせ)

昨年亡くなった秋田県を代表する登山家でフリーライターの藤原優太郎さんは、「山に恩返しをするために秋田の豊かな自然を後世に伝えたい」と話されていました。

私は山に魅了され 10 年ほど経ちますが、これまで登ってきた山々を振り返ると当時の楽しかった出来事やつらかった出来事が思い出され、いかに「山」と自分の生活が密接なつながりを持っていたかが分かります。

「山の日」が制定された年に自然保護課に在籍している偶然がなにかの巡り合わせで、山に恩返しするのが務めではないかと思ったのが、山の日制定記念事業を実施した理由です。登山者を増やしたい、あるいは自然を守りたいといった大それたことは考えていません。ただ単に、登山道等の維持管理を行政だけで行っていくのは限界であり、ボランティアの力を借りたいという考えで 6 回の山行を行い、登山道等の再整備を実施することができました。

そのような打算に御理解をいただき、御協力くださった、小松由佳様、佐藤俊正様、(株)ブラウブリッツ秋田様、佐々木民秀様、後藤千春様、奥村清明様、高桑信一様、関係機関の皆様には心より感謝申し上げます。

この事業は一過性のものではなく、「山の日」と共に来年度以降も継続して実施していきたいと考えています。

(秋田県生活環境部自然保護課 M.B)